

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
28	滋賀医科大学福祉保健医学講座
<b>題名 (原題/訳)</b> Smoking and drinking habits as risk factors for hearing loss in the elderly: epidemiological study of subjects undergoing routine health checks in Aichi, Japan. 高齢者における聴力低下の危険因子としての喫煙および飲酒習慣 : 愛知県の定期健康診断受診者を対象とした疫学研究より	
<b>執筆者</b> Itoh A, Nakashima T, Arao H, Wakai K, Tamakoshi A, Kawamura T, Ohno Y.	
<b>掲載誌 (番号又は発行年月日)</b> Public Health. 2001 May;115(3):192-6.	
<b>キーワード</b> 聴力低下、高齢者、喫煙、飲酒習慣、定期健康診断、	
<b>要 旨</b>  高齢者における聴力低下の危険因子を調べるために、自動化健診受診者の中から496名の両側性聴力低下者と年齢をマッチさせた聴力障害のない2807名を選び出し、生活習慣や検査データを分析した。  現在喫煙しているものは非喫煙者に比べて聴力低下の危険性が有意に高く、性・年齢・その他の交絡因子を調整したオッズ比は2.10 (1.53 - 2.89)であった。一方、多量飲酒者では非飲酒者と比べて聴力低下の危険性の増加は認められなかった。  この結果は加齢に伴う聴力低下の一次予防に役立つと考えられる。	